

クリスマスローズの育て方

クリスマスローズは、寒さにはとても強い植物ですが、反対に暑さには弱く、特にジメジメムシムシする梅雨から夏は、一番嫌な季節です。クリスマスローズを上手に育てるには、涼しい季節のうちにしっかり根を張らせ、一番生育の盛んな春に、水分や養分をたっぷり吸収し、葉大きく広げエネルギーを蓄え、できるだけ株を消耗させずに夏を乗り切ることです。そのためのいくつかの管理のポイントを抑えておけば、クリスマスローズを育てることは難しくありません。

しばらくは鉢のまま楽しんで

購入した開花株は、できるだけ低温（凍らないくらい）でゆっくり咲かせたほうが、いい花が咲き、長く楽しめます。日中は屋外の風当たりの弱いところで、夜だけ室内に入れるか、室内なら日中の温度が10度以上にならず、半日くらいは日の当たる場所に置きます。

根の伸びが十分でないものや、やわらかく育ったものの中には、急な温度変化で株がおれることがあります。その場合は、たっぷりと水をやり、しばらく日陰の涼しい所に置けば回復します。

水やり 過湿は禁物。花茎がやや傾くくらいに乾いたら、たっぷりかん水します。

肥料 新葉が伸び始める頃から、薄い液肥をかん水代わりに、月に1~2回程度。

花茎 種をつけさせなければ、株の消耗は少なくてすみます。花の真ん中にある花房のみを取り除くだけで、花茎は退色して見苦しくなってから切り落としても構いません。

花を楽しんだら

夏を乗り切るための十分な根張りを確保するために、本当はできるだけ早く植え替えるのが賢明です。その際、根鉢のできていない株であれば、そのまま根を崩さず、スポット植付けてやるとすぐに新しい根が伸びてきますが、鉢の中いづばいに根が回ったものはそうはいかないので、注意してください。

植付け 鉢 大きめの鉢を用意し、用土（赤玉・腐葉土・パーライト・肥料少々、または野菜用培養土）を入れて植付けます。水はけが悪いときは、鉢底にゴロを入れるなどして、水はけのよい、肥料のもちのいい状態にして植付けます。肥料は、ゆっくり長く効く緩効性のものを施します。

庭: 春の強い西風を避け、夏は明るい風通しのいい木陰で、西日が強く当たらない、水はけのいい、土が肥沃な場所が理想です。（そうでない場合は条件を補う）ここに深さ30センチくらいの植え穴を掘り、土に腐葉土、堆肥などの有機物や籾殻くん炭、酸度を中和するためにカキ殻石灰や苦土石灰、必要なら緩効性肥料を混ぜ合わせ、地表面と根元

が同じになるように調節して植付けます。水はけが悪い場合は、土を掘り下げるより、盛るようにします。

植付けたら、パークや落ち葉で株元を覆って、乾燥や雑草を抑えます。鉢植えでも庭植えでも、寝巻きがひどいものは、春は根の周りの土を軽く落とす程度で植え、秋に本格的に根を崩して植え直しをします。そうしないと、新しい根が伸びられず、株が衰えていってしまいます。

夏の管理 高温多湿にならないように、西日が当たらず、できるだけ涼しい場所で管理します。この時期は株が休眠しているので、追肥はしません。水やりも最小限に、夕方に行い、根の周りの温度を下げるようにします。

秋冬の管理 株が再び動き始め、花芽ができる時期です。10月になったら、燐酸分の多い緩効性肥料を与えます。また、株分けや植え替えは10月~12月が最適です。古葉は、見苦しいとき、新芽の伸びを邪魔するときは切り落とし、株元の乾燥を防ぐため、落ち葉などをかけてやります。この時期に鉢上げして株を室内に入れておくと、年明け頃から開花してきます。

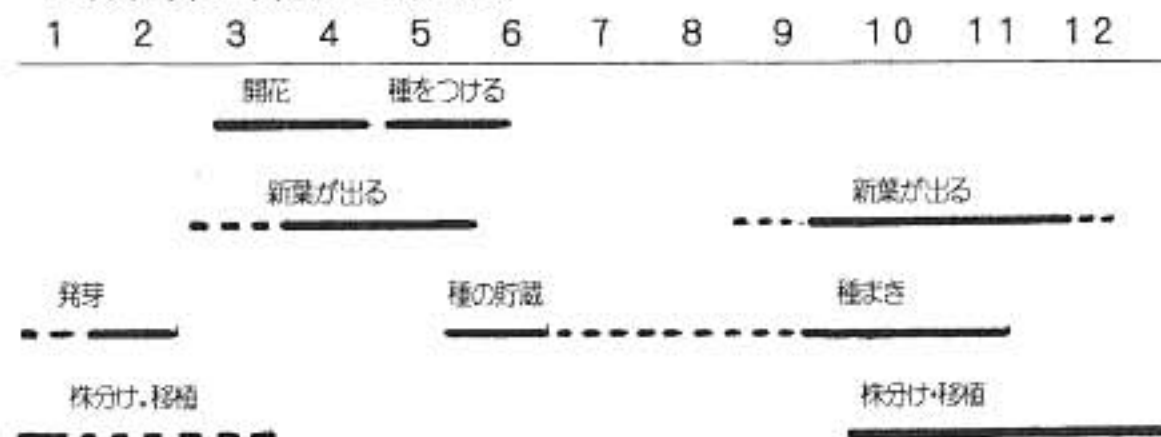
原種・交雑種の場合

丈夫なハイブリダス（一般のクリスマスローズ）と比べると、適した生育条件の幅が狭い分、原種は育てるのが難しいと言われるます。しかし、ニゲルはやや日陰が強いところ、有茎種（アウグチフォリウス・ピダス・フェチダス）はやや乾燥気味にすることを頭において育てれば、ハイブリダスとほぼ同様の管理で楽に大きくなります。また、有茎種との交配で作られた種類は、交配した原種の耐寒性の差で、露地栽培に弱いものもありますが、管理はハイブリダスに準じて構いません。

私だけのオリジナルクリスマスローズ

花の真ん中にサヤができ、その中には種が入っています。これを乾かさないようにして秋に播けば、春に発芽します。いろんなクリスマスローズを交配して、世界にひとつ、私だけの花が咲かせて下さい。

<クリスマスローズ暦> 宮城県露地



* 状態がよければ、種を播いて3年目に最初の花が咲きます。